

知識確認問題

～IV.貨物の正しい積載方法～

実施日:令和 年 月 日

氏名: _____

【問題 1】

積荷の積み方や固縛が十分でなく、(左右)に偏った積載の場合、カーブ・右左折・坂道などの走行時に横転する危険性があります。(前)に偏った積載の場合、下り坂や急ブレーキをかけたときなどに、制動力を減退させるおそれがあります。また、(後部)に偏った場合、ハンドル操作が不安定になり、発進時や登坂時、踏切通過時などに頭が持ち上がってしまう危険性があります。

【問題 2】

長い S 字カーブや曲がり角などの走行時、また、急ブレーキの衝撃や遠心力などにより、(横滑り)の荷崩れが発生しやすくなります。積荷そのものが積付けに対する外装強度を持っていない場合は、(型崩れ)による荷崩れ起こす場合があります。背が高く重心位置の高い場合は、急ブレーキや遠心力により(転倒)するおそれがあります。

【問題 3】

カートン・木箱などの数物の雑貨の場合には、カートンケースに印刷された一般雑貨の荷扱い指示やマークに従って積付けを行います。各種の貨物を混載する場合には、貨物の状態を確認し、(軽い)ものの上に重い荷物は積み重ねず、また鋭い角や突起のある荷物は(当て物)をするなどして、安全な積付けを行います。1個あたりの重量が大きい機械・鉄鋼製品、長尺物などの場合には、荷台の(中心)を考慮し、積荷の(重心)位置を適正な位置に積付けます。

【問題 4】

建設機械等を積載したときは、ワイヤーロープなどで固縛するほか、各種のブレーキロックは完全か、歯止めは完全かなどを確認します。積荷の長さが5m以上の場合には、少なくとも前後と中間の(3)点を固縛します。固縛機器の破損・はずれを防ぐため、荷台やロープフックや外枠の下部に直接荷締機のフックはかけずに、補助ワイヤーロープ又は環を使用します。積荷とワイヤーロープとの張り角度は、なるべく(45)度以内にします。ワイヤーロープを結んだり引っ掛けて使用すると、その強度は(約半分)となるため、できるだけ結んで使用しないようにします。固縛の途中で積荷とあおりとの間に隙間がある場合には、そのまま固縛せず、(木材)等で埋めます。

【問題 5】

荷崩れが起こらないよう、ハンドル操作はゆっくり行い、余裕を持った運転で急ブレーキをかけないように心がけます。また、走行の(途中)には必ず固縛の状態を点検します。(高速)道路では特に固縛をしっかりとし、積荷に配慮した運転をします。

出典：自動車運送事業者が事業用自動車の運転者に対して行う一般的な指導及び監督の実施マニュアル（国土交通省）

truck_honpen.pdf (mlit.go.jp)を加工して作成しております。